

再意見提出フォーマット

再意見提出者 個人

意見項目

(1) 今後の展望

無線通信は、WIMAX 等に代表されるような高速の無線通信が主流となり、一般的なユーザーであれば、FTTH ではなく、WIMAX 等を切り替えて使用することで、家庭内、外出先を問わず使っていくものと考えられる。通信サービスは一層の高速化が図られることから、新たな可能性が想像できる。

それは、コンピュータシステムのバスライン（本来、電線で接続されている）そのものを、ネットワークを介した状態で接続することで、CPUはこのサイト、入出力はこのサイト、メモリーはこのサイト、もちろんサービスはASPと、CPUの構成そのものを分解する、究極のクラウドが実現できるものと考えられる。並列CPUが欲しければ、そのサービスをなどと、新たな産業創出が考えられる。ユーザーは、高速なネットワーク接続環境さえあれば、仮想CPUの仮想OS環境を実現できる。全く新たな考え方である。

一方で、携帯電話環境は、通話、通信目的に徹したシンプルなものに落ちつくような気がする。前述した仮想CPU端末は、ソフトウェア無線機に似た形態であり、SDP (software defined possessor)とでも呼ぶべきではないか。

(2) 実現への課題

やはり、高速な通信網の確保が重要なことから、行政側の施設開放の緩和や、技術的な面では、日本が弱いFPGA関連の技術促進が必要である。

(3) SDR（ソフトウェア無線機）の研究は海外に比べて遅れているのが現状であり、先進的なブロードバンド環境の研究には、SDRは欠かせない技術である。

(4) その他

特になし。